

教科	科目	学年	単位数	使用教科書	主な使用補助教材
家庭	家庭基礎	2	2	「新家庭基礎 気づく力 築く未来」実教出版	「2026最新生活ハンドブック」第一学習社

1 科目の目標と評価の観点

目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向け、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成する。				
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
	人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的知識と、それらに係る技術を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて理論的に表現することができる。生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。		様々な人と協働し、より良い社会の構築に向けて、自分や家族・地域の生活の充実・向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	

2 学習計画と観点別評価基準

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
家庭科の学び方	1学期 (25)		年間の授業予定を理解し、評価に対する理解をすることができる。	各自の家庭及び地域社会における生活の中に様々な課題があることを思考していく。	これからの学習について意欲的に取り組む態度を身に付けている。
第2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達		乳幼児期の子どもの特徴を理解する。次世代を担う子どもを健やかに育てていく責任があり、社会全体で支えていく必要があることを理解できるようにする。	生まれてくる新しい命は、家族の一員としてだけでなく、社会の一員としてもかけがえのない存在であることを理解している。	子どもを生み育てることの意義について理解し、子育てにおいて何が大切であるかを判断できる。子どもの発達段階を踏まえて、適切な対応ができる。	子育てについて関心を持ち、対処できる態度が身についている。子どもの心身の発達に関心を持ち、成長過程にみられる特徴を理解できるように意欲がそそぐ。
第2節 子どもの生活			子どもが健康でたくましく育つためには、家族・家庭のもとでの保育環境が重要であることを理解している。	乳幼児期における育て方が、その後の子どもの発達に大きな影響を及ぼすことを視野に入れ、子どもの衣食住生活を思考・判断することができる。	子どもを育てるとき、どのような考え方で臨み、日常生活の中でどう接していけばよいかということに関心を持っている。
第3節 子育て支援と福祉			子育てには心身の負担が大きいこと、親だけでなく地域や社会の支援も必要なことを理解している。	子育て支援のためのさまざまな法令があることを認識し、その適用を考えることができる。	子育てに関して、子どもの権利を重んじる立場から、さまざまな問題に関心を持ち、意欲的に取り組もうとしている。
第6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服		衣服のもつ機能を活かし望ましい着装について考える。健康で快適な衣生活を営むために必要な被服材料について理解し、適切な衣服管理が行えるようにする。	衣生活の充実・向上のための知識を身に付け、衣服のTPOをわきまえている。衣服の表示を正確に読み取り、自分の衣生活に生かすことができる。	各年齢層にふさわしい被服について多面的に思考・判断できる。衣服の選択に関する基礎的・基本的な知識をもとに、衣生活の向上・充実に取り組むことができる。	人の暮らしと衣生活とのかかわりを明らかにすることに意欲的に取り組んでいる。高校生にふさわしい、自分らしい装いについて関心が高まっている。
第2節 被服材料と管理			繊維の種類と特徴について理解している。衣服の寿命を長く保つうえで、衣服の手入れが重要であることを認識し、実行できている。	様々な場面にふさわしい素材や布の種類について考察することができる。より良い洗濯方法を考え、改善していくことができる。	被服材料に着目し、素材や繊維物・編み物によって外観や性能が異なってくることに関心を持ち、衣生活に生かそうとする。衣服の表示から適切な管理方法を考えることができる。
被服製作実習		被服製作に関する基礎的な知識・技術をものに付ける。	被服製作に必要な基礎的・基本的知識を身に付け、被服製作を、正しく行う技術を身に付ける。自らの衣生活の運営に生かすことができる。	被服製作において、適切な用具の選択・使用方法を考え使用することができる。必要な縫製方法を用途に応じて考え、適正に行うことができる。	被服製作についての用具等の準備をすることができる。被服製作について、自ら考え、意欲的に取り組むことができる。製作した作品を実生活の中で活用していこうとする。
ホームプロジェクト		生活の中から課題を見つけ、自ら課題解決のために行動することができる。	ホームプロジェクトとは、家庭科で学んだことを自分の生活に照らして考え、課題を見つけ、それを解決するために行う実践活動であることを理解する。夏季休業中の課題として、各自が取り組み、二学期にプレゼンすることを理解する。	課題の目的に照らし合わせ、自らの生活について振り返り、解決すべき課題を発見することができる。取り組んだ内容をまとめレポートを作成、クラス内で発表をする。	ホームプロジェクトについて、意義を理解し、意欲的に計画・実践・まとめ・発表をすることができる。他者の取り組みについて、意欲的に聞く態度をもつ。
定期考查	1				

学習内容	学期	学習のねらい	観点別評価基準		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第5章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事	2 学期 (25)	健康な食生活を営むために必要な栄養・食品などの基礎的・基本的な知識と技術を理解する。	食事の役割を理解し、日常の食生活で心掛けるポイントを理解している。これからの食生活の向上を考えるうえでの必要な情報や知識を身に付けている。	自分の食生活を振り返り、課題を見出し、見直しを図ることができる。食生活がどのように変化してきたか、持続可能な社会の実現に向け適切な食糧消費のあり方を思考・判断することができる。	食生活の現状について関心を持ち、問題点を解決しようとする姿勢が身についている。持続可能な社会の実現に向け、積極的にかかわろうとする態度が身についている。
第2節 栄養と食品			食物を摂取し、それを利用するための消化・吸収の過程を理解している。五大栄養素について多く含む食品を理解し、適切に組み合わせて摂取する方法を身に付けている。	消化・吸収の過程について理解している。五大栄養素についての基本事項を身に付けており、実生活の場面で個々の食品にあてはめて考えることができる。	私たちの生命と健康を維持するうえで必要な栄養素について理解しようとする意欲がみられる。五大栄養素について関心を持ち、その種類や働きを理解したうえで、食生活に応用しようとする関心が高まっている。
第3節 食生活の安全のために			食品表示・栄養表示についての知識を身に付けている。食中毒の原因と予防法など、食品安全・衛生にかかわる知識を身に付けている。	食品の安全・衛生の観点から、食品の管理について主体的に判断し、食品を適切に扱うことができる。	食品の取り扱いについて、食生活を守る立場から関心を持ち、実践的に取り組んでいる。
調理実習 ホームプロジェクト		調理についての基本的な技術や食品の特性を生かした調理法について理解し、実践できるようにする。課題解決の過程をまとめ発表することができる。	調理実習を通して、献立・調理を実践し、日常の食生活の必要な知識を身に付けている。調理の基本を身に付け、食生活の充実・向上のための技能を発揮することができる。	課題意識をもって調理実習に臨み、栄養バランス、おいしさ、食べやすさの面で適切に思考・判断できる。	自分で調理ができること、それを家族や知人に役立てることに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
第4節 食生活をデザインする		自分や家族の健康を考えた献立作成ができる。	1日に摂取すべき栄養素量がわかり、栄養計算を行うことができる。食品群の考えに立って、1日に何をどれだけ食べればよいかを割り出すことができる。	家族の性・年齢・身体活動レベルに応じた摂取量のめやすから、家族の食生活の課題に気づき、改善策を検討できる。	健康を維持し生活習慣病を予防するうえで、1日にどれくらいのエネルギーと栄養素を取ることが適切か、日常から関心を持ち、心掛けている。
第8章 経済生活をつくる 第1節 私たちの暮らしと経済		家計と経済の仕組みを理解する。消費者信用の重要性を理解し、将来の行動につなげることができる。	政府・企業・家計の間の経済的なかわり、およびそれぞれの役割を理解し、家庭経済および国民経済に関する仕組みについて十分理解している。	家計収支のバランスを取るものの大切さ、可処分所得の意味について思考を深め、適切に判断する能力を身に付けている。	自分の将来に関心を持ち、その充実・向上を目指して生活設計・経済設計を実践する態度を身に付けている。
第2節 消費者問題を考える			消費者として必要な知識と価値観を身に付け、日常生活の中で消費生活の向上を目指して工夫することができる。	問題商法によるトラブルの原因を探り、課題を明らかにして、適切な判断により解決策を見出すことができる。	物を買うこと、やりとりをするときは必ず契約がともなうことを認識し、消費生活を送るうえでのルールを身に付けている。
定期考査	1				
第1章 これからの生き方と家族	3 学期 (17)	社会と生き方の多様性を把握し、多様な家族のあり方についての視野を養う。	男女共同参画社会に向けて性別役割分業意識の問題、各種法令による取り組みの内容が理解できている。自分や家族のために法令があることを理解できている。	家庭生活と職業労働の両立について問題意識を持ち、生活の質の向上に向けた課題について思考・判断できる。家庭内の課題について思考・判断できる。	多様な人のワーク・ライフ・バランスを維持できる環境について考える。多様な家族への支援の充実が求められていることに関心を持ち、問題解決をはかろうとする意欲がみられる。
第7章 住生活をつくる 第1節 人の一生と住まい		人にとってなぜ住まいが必要なのか、住まいの発生について考える。ライフサイクルを考え、望ましい間取りを考える。	住まいの機能を理解している。健康に配慮した室内環境づくりに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。	現代の間取りの特徴を知り、より機能的な生活を目指して課題を見つけ、試行することができる。室内環境・安全管理のために必要な条件について主体的に思考・判断することができる。	生活の拠点としての住居の重要性を認識し、その充実・向上を目指して意欲的に取り組んでいる。室内環境・安全管理に関心を持ち、住まいの工夫・充実・向上に意欲的に取り組むことができる。
第2節 住生活の計画と選択			住まいを維持・管理する上で、必要な事項を身に付けている。賃貸物件の選択・契約に関する基本的事項を理解する。	住居の機能を家族のライフステージの変化とともにとらえ、家族それぞれのための住居のあり方について思考・判断できる。	ライフステージのあった快適な住まいを追求し、住生活の充実・向上に意欲的に取り組んでいる。賃貸物件の適切な選択について、考え、実践していこうとする。
第3章 充実した生涯へ		高齢期の心身の特徴を理解し、社会の現状と今後の解決すべき課題について理解する。	高齢者の身体的機能の特徴を理解し、社会参加に向けて自立を衣支援するためにどのようにすればよいかを考えることができる。高齢者への社会的支援システムの仕組みを理解している。	高齢化が進んでいる実態を把握し、その原因と課題を探ることができる。高齢者の加齢に伴う心身の変化や自立について個人差がみられることを理解できている。	高齢者の生活に関心を持ち、その充実・向上のために課題を解決しようとする意欲がみられる。誰もがやが歳をとるという視点から、高齢化を自分自身の問題としてとらえている。
定期考査	1				